



Suku Suku 子育て



富士見保育所で水遊びを楽しむ子どもたち。泥んこになりながら、砂場を掘ってトンネルを作ったり、バケツで水を運んだり♪七夕飾りもみんなで制作しました★

子育て情報BOX

乳幼児すこやか相談

- 対 就学前までの乳幼児とその保護者・妊婦の方
 - 日 8月21日(月)①9時30分～10時②10時～10時30分③10時30分～11時
 - 場 保健センター
 - 定 各回12組(申込順)
 - 内 身長体重測定、希望者に保健相談、母乳相談、栄養相談、歯科相談、保育所などに関する相談
 - 持 母子健康手帳
 - 申 専用フォームから
 - 問 保健センター ☎271・2745
- 申込みは
こちらから



こども図書館座シネマ

- ①「世界名作劇場 ピーターパンの冒険」
 - ②「はたらく細胞」
 - 日 ①8月20日(日)14時～15時30分②8月24日(木)14時～16時(各回15分前開場)
 - 場 中央図書館
 - 内 ①ピーターパンとウェンディたちがくりひろげる、数々の冒険物語②あなたの体の中で起きている細胞たちの物語。全13話の中から4話を上映。
 - 定 各回40人(申込順)
 - 申 8月4日(金)から中央図書館へ直接、☎271・3001、またはホームページから
 - 問
- 申込みはこちらから



ようこそ鶴ヶ島de子育て

～親子で交流サロン～

- 同じ地域で子育てするママとおしゃべりをして情報交換をしませんか？お子さんが幼稚園や保育園に行っている方は、ママだけの参加も大歓迎です！
- サロン中は保健師、保育士が保育のお手伝いをしますので、安心していらしてください。
- 対 就学前の親子(①多胎児妊娠中の方、②ふたごの親子③子どもの発達が心配な親子④お友達が欲しい親子(妊婦さん))
 - 日 8月22日(火)10時～12時
 - 場 保健センター
 - 内 グループワーク・フリートーク・親子ふれあい遊び・絵本の読み聞かせ
 - 申 問 保健センターへ直接または☎271・2745

子育て講座「つくってあそぼう!夏のおもちゃ」

- 対 0歳～3歳のお子さんと保護者
- 日 8月24日(木)10時～11時30分
- 場 女性センター
- 内 夏らしいおもちゃをつくって遊びます
- 定 10組(申込順)
- 料 無料
- 持 飲み物・持ち帰り袋
- 申 問 8月7日(月)から鶴ヶ島子育てセンター(鶴ヶ島保育所内)へ☎286・7201

困ったときは・・・

- 児童・家庭総合相談窓口 **子育て・虐待・家庭の問題など** (☎271・1111)
- 女性・DV相談直通ダイヤル (☎298・7716)
- 鶴ヶ島子育てセンター[鶴ヶ島保育所内] (☎286・7201) **子育て**
- 川越児童相談所 (☎223・4152) **子育てで児童虐待**
- 児童相談所全国共通3桁ダイヤル (☎189) ^{24時間}/_{365日} **児童虐待**
- 保健センター (☎271・2745) **妊娠・出産・子どもの発達など**

「もしも」のために「今」備える 子育て世帯のための災害への備え

「関東大震災」死者行方不明者は推定10万人以上と言われている甚大な災害。今年の9月1日で、発生から100年を迎えます。この節目をきっかけに各家庭で災害への「備え」を見直してみませんか。災害はいつ起こるかわかりません。この記事を読んでいる「今」も発生する可能性があります。今月の広報紙に折り込まれている「防災ハザードマップ」とあわせてお子さんと一緒に確認し、できる「備え」からやってみましょう。

問合せ先 危機管理課防災危機管理担当

今月の折込「防災ハザードマップ」をチェック

- ★おむつや子ども用の靴など、子どもの成長に伴ってサイズが変わるものは、普段着用しているものより1サイズ大きめのものを備蓄しておきましょう。
 - ★子ども用の着替えは、季節に合っているか見直しましょう。
- ※ 詳しくは、「防災ハザードマップ」P8に「赤ちゃんがいる家庭に必要なもの」が記載されていますのでご覧ください

備えにひと工夫



- ★スマホにホイッスル
持ち歩くことが多いスマホのストラップとして、ホイッスルを付けておきませんか。災害時に助けを呼ぶ際に体力を温存できます。
- ★備蓄品を入れておくバッグはリュックにしましょう
万が一、自宅から避難することがある場合、お子さんを抱っこしながら、もしくは手をつなぎながらの避難が想定されます。両手が使えるようになるリュックをご活用ください。

日常生活でも防災を意識する

自宅での遊びの中で避難訓練を取り入れてみよう！

学校や職場などでは避難訓練を行います。自宅で行っている人は少ないと思います。災害の種類によって、どのような行動をとるかゲーム感覚でやってみましょう。例えば保護者が「火事」と言ったら、身を低くして口と鼻にハンカチなどをあてる、「地震」と言ったらテーブルの下に入る。災害が起きたとき、保護者がすぐに子どもを守れる場所にいるとは限りませんので、日ごろから遊びなどを通して自分の身を守る方法を伝えてあげましょう。

真っ暗な経験をしておきましょう

普段の生活の中で家の中が真っ暗な状態は寝るとき以外、ほとんどありません。子どもは、停電になって真っ暗になると、恐怖からパニックになり、保護者のもとへ行こうと走りだしたりします。床がどのような状態なのか、どこに何があるのか分からないため、けがの原因になります。普段の遊びの中で、ヘッドライトで過ごすなど、暗闇に慣れる経験をしておきましょう。経験することで行動が変わります。



子どものパーソナルカードを作っておきましょう！

災害時や避難時に、子どもとはぐれてしまったときのために準備しておきましょう。また食物アレルギーの不安がある方は、避難生活中に救護物資を食べる機会に備えて、専門医の受診をしておきましょう。

必要なもの

- 白い台紙
- 名札ケース
- ペン

大人のパーソナルカードも必要です！

非常時には、当たり前のことが思い出せない場合があります。大人の分のカードも事前に作っておきましょう！



- 名前
- 住所
- ママ・パパの連絡先
- かかりつけ医療機関
- アレルギー有無(除去食材)

